



木脇中
学校だより

『夢』実現

ゆめじつげん

第 R6-2号
～地域とともにある木脇中～

発行元：
国富町立木脇中学校
(文責 校長・向江)
令和6年4月17日

入学式特集 全校生徒138名がそろい、いざ、令和6年度スタート!

4月11日(木)、令和6年度の「第78回入学式」を挙行了しました。20名の来賓にご臨席いただき、コロナ禍前のお祝いムードに近い式典となりました。新入生は、少し緊張した面持ちの中にも中学校生活への希望や意欲を強く感じました。今抱いている「やる気」を大切に、自分の「力」を信じ、いろいろなことに積極的に「挑戦」してほしいと思います。

式では、在校生を代表して池袋悠鈴生徒会副会長が、「本校は愛の愛掬があふれている。愛掬をすると一日を気持ちよくスタートできる。」との歓迎の言葉に対して、新入生を代表して重山陽斗くんが、「環境の変化や勉強と部活動との両立などに不安はあるが、新しい出会いや学校行事に胸が高まる。」と新入生らしい誓いの言葉を述べてくれました。

これで、令和6年度、生徒138名、職員21名が全員そろい、まずは、順調なスタートを切ることができました。地域とともにある学校として、「地域の信頼と期待に応える学校」をめざし、「将来の木脇を背負う人材の育成」と「居心地のよい学校づくり」に努めます。そのためにも、「わかった!できた!」を実感・体感できる授業はもちろん、人間性に溢れ、生徒一人ひとりに寄り添い、生徒・保護者から信頼される教師として、生徒の「夢」の「実現」に向けて、良き指導者・支援者となり続けたいと思います。



【学校長式辞より抜粋】

今、皆さんの気持ちは、中学校生活への大きな希望と不安とが混ざりあっていると思います。2・3年生の先輩の姿から伝統を学び、受け継いで欲しいと思います。

さて、これからの中学校生活を楽しく、充実したものにしていくために、二つのことをお願いしたいと思います。

一つ目は、「夢」をもって、「努力」し続けて欲しいということ

「若竹の伸びゆく」とく
こども達よ 真直に伸ばせ
身をたましひを」



この歌は、宮崎県が誇る歌人「若山牧水」が、子どもたちにお互いに切磋琢磨しながらますます伸びてほしい。体だけではなく勉強もたくさんして人として成長してほしいと願う、まさに新入生の皆さんに、向けて歌ったものに思えます。

二つ目は、自分や他人の「心」を大切にしたいということです。

「ころ」は

だれにも見えないけれど

「ころ」は 見えないけれど

「思いやり」は
だれにでも見える

これは、13年前(皆さんが生まれた頃)に起きた東日本大震災後にテレビで流れ、心に染み入った言葉ですが、詩人・宮澤章二さんの『行為の意味』から抜粋し、要約したフレーズです。そして、この詩は次のように結ばれます。

「ころ」は あたたかい心が
あたたかい行為になり
やさしい「思い」が
やさしい行為になる

それは 人が人として生きることだ。

今まで、友だちの思いやりや温かい言葉によって、勇気づけられたり、励まされたりした経験は誰にでもあると思います。人の「心」や「思い」は、言葉や態度に表れます。仲間を思いやる心、譲り合う心など、相手の気持ちを考えた言葉や行動、「つまり」心くばり」の姿が見える



最後の「学校が楽しい」「木脇中に入学してよかった」と言っていたように、職員一同、お子様の安全・安心な学校生活を第一に、情熱を持ち、誠意を持って指導に当たることをお誓いし、式辞いたします。

◆木脇中ホームページ◆

<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/4143/>

木脇中

検索



※学校の様子や学校だよりをスマホでも視聴できます!

今日もまた雨…。と恨んでも、春は梅雨時期に続き雨が多い時期なので仕方ないことです。でも、春の雨には時期や降り方で、春雨、催花雨、菜種梅雨、春時雨など、春や花という言葉を使った様々な素敵な呼び方があります。「今日の雨は何て呼ばれるかな?」と風情を楽しみながら過ごすのもいいかもです!(向江)

